

【機械・重点事業】国際競争力強化に資する標準化の推進

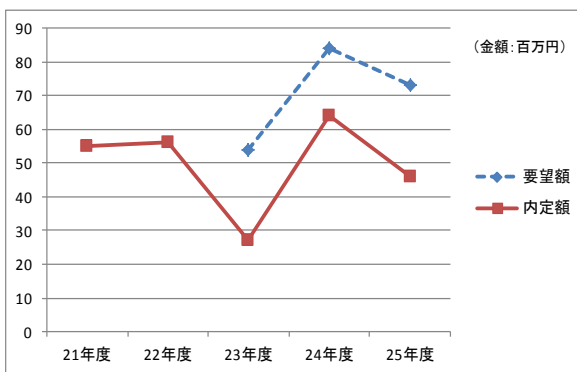
1. 補助の目的・概要

グローバル化の進展により、製品や部品が世界規模で製造・流通される時代となっており、標準化は、日本の機械工業が世界規模で活動を目指す中で、製品の高付加価値化、国際競争力強化を図るためには必須の要件となっている。

平成 23 年度の機械工業振興補助においては、国際競争力強化に資する標準化事業を重点事業とした。

2. 補助実績（件数・金額）

国際競争力強化に資する標準化の推進



年度	要望数 (件)	要望額 (百万円)	内定数* (件)	内定額* (百万円)
21年度			1	55
22年度			1	56
23年度	12	54	10	27
24年度	16	84	14	64
25年度	14	73	12	46

※辞退となった事業を除く

平成 23 年度においては、12 件 5,400 万円の補助要望があり、そのうち 10 件 2,700 万円の支援を行った。なお、11 件の内定事業のうち、1 件が辞退となった。

3. 補助事業の事例

一般社団法人
日本ファインセラミックス協会

ファインセラミックス、外科用インプラントに関する技術委員会が開発する国際規格に、提案・意見を的確に反映させるため、国際規格開発初期段階から積極的に国際会議に委員を派遣し、我が国からの提案を発信した。



4. 補助事業の成果

(一社) 日本ファインセラミックス協会が行う、ファインセラミックスにおける国際規格に関する調査研究・啓発事業について支援を行った。

この事業は、これから確定される国際規格にわが国の提案や意見を反映させることにより、国際競争力の強化と機械工業の振興を図るものである。国際規格の提案から決定までは数年を要するため、その作成に寄与しわが国の提案に近い形とするためには初期段階からの規格化作業に関与する必要がある。ファインセラミックスの国際規格 ISO/TC206 については 2013 年現在も調整が進められているが、この規格の国際会議に参加し、幹事国としての責務を果たすために行われた調査研究・普及啓発事業について支援を行った。

また、(一社) 研究産業・産業技術振興協会に対して、ナノレベル分析技術の国際標準化について支援を行った。

この事業は、ナノテクノロジーの先端分析国際標準規格を目指し、ナノレベル分析の標準試料と標準分析手法に関する調査を行うことにより、国際標準規格の候補となる原案を作成するものであり、そのために必要となる調査研究事業を行った。

他にも、(一社) 電子情報通信学会が行う光通信関係技術の国際規格への対応など、さまざまな分野における国際標準化対応について補助を行うことにより、わが国の機械工業の国際競争力強化を図った。当該年度において実施された国際競争力強化に資する標準化の推進に関する事業は以下のとおりである。

事業者名	事業名	標準化又は調査の対象
一般財団法人 エンジニアリング協会	海洋発電システムの標準化に関する調査研究	・海洋エネルギーを利用した発電システム
公益財団法人 国際超電導産業技術研究センター	超電導国際標準化の推進	・超電導技術の規格
一般社団法人 電子情報通信学会	機械工業における国際標準化の推進	・光通信関係技術の国際規格
一般社団法人 日本建設機械施工協会	建設機械分野における国際標準化の推進	・土工機械の安全性規格
一般社団法人 情報処理学会	国際競争力強化に資する情報技術標準化の推進	・情報技術に関する規格
一般社団法人 研究産業・産業技術振興協会	機械工業に係わるナノレベル分析技術の国際標準化の推進	・ナノレベル分析技術

一般社団法人 日本プラント協会	石油・石化・天然ガス分野のプラント・エンジニアリング産業における国際標準化の推進	・石油・石油化学・天然ガスに関連する設備・システム
一般社団法人 日本機械工業連合会	機械工業における標準化と事業戦略に関する調査研究	・標準化と事業戦略を効果的に結び付けたビジネスモデルの構築
一般社団法人 日本航空宇宙工業会	航空機工業の標準化対応に関する調査研究	・騒音、排出物、燃費に対する規制強化に関する国際的な標準化への対応
一般社団法人 日本ファインセラミックス協会	ファインセラミックスに関する国際標準化の推進	・ファインセラミックス、外科用インプラントに関する国際規格

5. 補助事業の評価

事業完了後の事業者の自己評価の総合評価は、評価対象 13 件（1 補助事業で複数項目を評価していることがあるため事業数とは異なる）のうち、5 段階評価で、評価 5 [極めて高い] が 3 件、評価 4 [比較的高い] が 6 件、評価 3 [ほぼ問題ない] が 4 件であった。

事業者の自己評価等を踏まえ JKA で評価を行ったところ、A+[比較的高い] が 10 件、A [概ね十分] が 3 件とすべての事業で補助事業として概ね十分と評価される A 以上の評価となっており、国際規格へ日本の意見を反映させるための活動は一定の成果をあげ、補助の目的である、国際競争力強化に寄与していると思われる。

6. 今後の検討課題

標準化については、今後のものづくりの基準を定めるものであり、非常に重要な分野である。ただし、国際標準化については規格の提案から検討、決定までに数年を要し、長期間にわたる継続的な支援が必要となる。補助事業の成果が広く社会全般に行き渡るまでには、長い時間がかかる。

また、さまざまな分野で国際基準が定められているため、その標準化がどこまで機械工業全体に寄与するものであるか、難しい問題もある。

国際競争力強化はわが国機械工業に求められる要素であり、引続きこの分野への支援は必要と考えられる。